

## 環境教育プロジェクト「地球教室 2022」

「地球教室」は、新聞社の持つ環境に関する情報やアセットを、小学校の教育現場で活用することを目的として、2008年にスタートしました。プロジェクトは4つのプログラムを展開しています。①朝日新聞が発行する環境学習テキストの無料配布②児童が制作する「かんきょう新聞」コンテスト③小学生を無料招待するイベント「かんきょう1日学校」の開催④記者と協賛企業講師による合同の「出張授業」。これらのプログラムを通して、学校や家庭に自社の環境への取り組みを訴求したい企業と、環境教材や多様な学びの機会を求める学校を結び、環境教育の場を創出しています。

テキストは環境を学ぶ上で必要な基礎知識を体系的に解説した「基礎編」と、協賛企業などの環境技術や取り組みをまとめた「応用・研究編」で構成されています。一部を朝日新聞記者が執筆し、児童が記事作成に挑戦するときに役立つアドバイスも載せるなど、児童の目線に立って自発的な学習を促す工夫を盛り込みました。テキストで学んだこと、考えたり調べたりしたことをまとめた「かんきょう新聞」コンテストには、約8500枚の作品が寄せられました。「科学漫画サバイバル」シリーズ（朝日新聞出版）とのコラボレーションも好評で、小学校・団体へのテキスト配布は、毎年約26万冊、累計で約330万冊にのぼります。また、親子を対象とした「かんきょう1日学校」を9月23日に開催、朝日新聞記者と協賛企業が講師を務める合同出張授業には約500校からの応募があり、全国10校での実施に至りました。

2023年度は、小学校で急速に進むICT教育の普及に対応し、教材をデジタル化します。公式サイトにデジタルテキストを掲載し、児童一人ひとりがタブレットでテキストを学習できるようにします。テキストは付箋やリンクの機能も備え、自発的なデジタル教育を進める補助教材として使用いただくことを想定しています。

新聞社ならではの環境教育プログラムの開発と改善を通して、学校と企業のそれぞれのニーズに応じていくよう、引き続きプロジェクトの活性化を図っていきます。（特別協賛：旭化成株式会社、株式会社ロッテ、ナブテスコ株式会社、株式会社UACJ、三機工業株式会社、後援：文部科学省、環境省、全国連合小学校長会、全国小学校理科研究協議会、朝日学生新聞社、協力：ESD活動支援センター）



小学生対象イベント「かんきょう1日学校」の様子。朝日新聞記者や協賛企業の社員が「先生」となって授業を展開しました（2022年10月31日付全国版朝刊）。